

認知したいじめを速やかに解消した事例2（小学校第6学年男子） ～電話及び来所相談における対応と家庭・学校との連携～

問題の把握

相談者は保護者。友達にいじめられているのを他の保護者から聞いた。保護者は学習面で心配はしていないが、人のかかわり方について心配していた。本人は同級生のいじめととれる行動については気にしていない様子である。

兄弟が自閉症の診断があり、心療内科の医師に相談したところ、当センターの教育相談の紹介があった。子どもに必要な支援について教育相談を希望した。

対応状況

1 相談機関の対応

(1) 電話相談の内容（10月上旬）

- ・保護者からの電話で状況について話を聞き、子どもの行動上の特徴について聞き取りを行った。
- ・保護者に教育相談における心理検査の目的やその結果の扱いについて理解を得ながら来所相談を促した。

(2) 来所相談の内容（11月上旬）

- ・子どもの生育歴、養育の状況、学校での教育、支援状況を把握し、状況の整理を行った。
- ・子どもの状況から必要と思われる検査を実施し、諸検査の結果、知能検査等から子どもの状態像をとらえて、保護者に伝えた。
- ・子どもへのかかわり方として、以下の助言をした。
 - ①全体への説明のあと、個別に話しかけ、簡潔に説明して理解を促す。
 - ②場面に応じた言葉かけや、自分の気持ちや相手の気持ちを代弁するなどして、大人が話し言葉のモデルを示す。
 - ③子どもが少しでも活動に参加できたり、意欲がみられたらほめること。
 - ④保護者から学校に来所教育相談の結果について伝えることで、学校との連携を図っていくこと。
- ・保護者の了承を得て、学級担任から電話をもらい、子どもの状態と指導・支援の方法について情報提供した。

2 相談者の変容

- 担任が子どもの状態像を理解し、積極的に子どもの状態像に応じたかかわりがあったので、同級生の当該児童の理解が深まり、いじめは解消した。

いじめの問題を速やかに解消するためのポイント

- ・保護者の心情に寄り添いながら、子どものいじめの状況や発達の状態を具体的に把握し、解決の方策を探る相談を行うこと。
- ・子どもに適切な支援をするためには、子どもの状態像をとらえて、発達や認知処理の特性からかかわり方について考えること。
- ・保護者の了解を得て、各学校等へ速やかに情報提供し、連携を図った支援を行うこと。
- ・保護者と学校が相互に子どもの状態像や発達や認知処理の特性について共通理解すること。